会員だより

新入会員ご紹介

有限会社友田大洋堂
代表取締役　**友田 公二**



有限会社友田大洋堂本社（松江市）

2025年10月に日本試薬協会に入会いたしました有限会社友田大洋堂です。入会を承認いただきましたことを感謝申しあげるとともに、弊社について会報紙面をお借りいたしましてご紹介させていただきたく思います。

弊社は試薬・硝子器具・理化学機器・分析および計測機器・研究設備などを販売しており、顧客は島根大学、鳥取大学をはじめとする学校関係、官公庁の試験研究機関および民間企業で占められています。弊社の前身である友田薬品は昭和25年4月、試薬と理化学機械器具の販売を目的に、松江市東本町で開店しました。創業者は私の祖父の弟の友田末松氏です。友田一族はもともと兵庫県豊岡市出身であり、松江の人ではありませんでした。末松氏は戦後大阪で工業薬品の卸業を営んでおり、仕事の関係で松江へ来る機会があり、家族の事情により松江で商売を営むことになりました。

昭和36年1月に有限会社に改組。翌年兵庫県豊岡市から私の祖父の友田莞爾氏を社長に迎え、松江での本格的営業が開始されました。莞爾氏は戦前、旧満州（現中国 大連市）に渡り、大連で医薬品卸業の大洋堂薬局を設立し、満州薬業界3羽がらすのひとりと呼ばれるほど成功した知名人でした。日本敗戦により私財を接収され引き揚げてきた莞爾氏は、豊岡市で一時薬局を営んだ後、豊岡市立養老院初代院長に就任。当時はそこを定年退職したばかりの頃でした。昭和37年1月、末松氏は東

京で事業に成功した長男の会社経営を手伝うため、兄莞爾氏と私の父友田富彌氏に友田薬品の経営権を譲渡しました。父は東京日本橋の純正化学株式会社に勤務していましたが、病気を患い退職し、病気療養のために豊岡に帰郷していました。



満州時代の「大洋堂薬局」の建物（大連）
1935 年に建った鉄筋 4 階建てのビルです。当時店と住居が一緒になっていました。1997 年までは現存していたようですが、北京オリンピックの時に、都市開発にてこの周りの建物は全て無くなったそうです。

父は「経営権の譲渡は、父と叔父の間での兄弟愛の表れだったと思う」と以前述べたことがあるのですが、兄莞爾氏と弟末松氏の間には、長い兄弟の歴史があったようです。高等小学校を卒業するとすぐに上京した莞爾氏は、働きながら薬科学校に通い、独学で薬剤師の資格を16歳という若さで取得。さらに弟末松氏を明治薬専（現 明治薬科大学）に学ばせ、その学費を賄うために満洲に渡ったのです。明治薬専を卒業した末松氏も兄を追うように渡満しています。

こうした経緯で新しく出発した友田薬品ですが決して順風満帆ではありませんでした。松江は古い歴史を誇る都市にありがちな保守的で閉鎖性の強い土地柄で、他所者に対しては排他的であったからです。

そうした状況下で弊社がとった販売戦略は、顧客のニーズに合わせる販売と、徹底したアフターサービスでした。その当時の松江商人は殿様商売と言われたように、売りっぱなしの傾向が強く、弊社の戦略は有効でした。その時だけでなく、最後まで誠実さを示す弊社の企業姿勢は、祖父が満州で養ってきた商人の心意気ではなかったかと思います。

昭和42年2月、試薬から理化学機器へ販売品目が移行してきたことから、社名を現在の有限会社友田大洋堂に変更しました。従業員を増やすに従い、市場も浜田、益田と拡大していきます。

「大洋堂」という名前の由来は、満州時代の会社名（大洋堂薬局）であったことからと聞いています。「（日本）海を渡ってきた商売人」という意味だそうです。ここにも祖父は満州時代の想いをこの松江の会社に残したかったのではないかと思っています。



戦前の大連市街地図（大洋堂薬局の所在地付近）
父が満州に旅行に行ったときに、戦前の内容を記載した地図がお土産で販売しており、そこに祖父の会社も記載がありました。

昭和46年8月、宍道湖を埋め立てて造成されたばかりの松江卸団地（松江市嫁島町）に新築移転いたします。仕入先も実績と共に増え、父の兄弟の三男友田省三氏も松江に戻って社

員として働き、兄弟3人で会社の成長を進めていく中で祖父が昭和49年11月に突然亡くなります。11月に父が代表取締役、実弟友田祐爾氏が専務取締役となり経営を引き継ぎました。そののち、昭和51年に本社社屋の隣に三階建て倉庫を増築し硝子器具など商品在庫の管理ができるようになりました。

また専務の祐爾氏は早くから隣県の鳥取県の顧客を自ら開拓し、週に2～3日は車で鳥取県内と松江本社を行き来しながら顧客とのパイプ作りを行い、平成6年に鳥取営業所を開設するまでに至りました。当時は松江から鳥取市まで車で片道3時間は最低かかりました。携帯電話やパソコンもない時代でしたから、メーカーとの連絡は公衆電話であり、鳥取と島根の距離であっても鳥取の地元ディーラーに負けず劣らず懇意にしてもらえるよう意識していたようです。そして通い始めて20年後に、念願だった鳥取営業所を開所するまでに至りました。島根県だけでなく鳥取県も販売拠点にすることで山陰地域での業績をさらに拡大していくこととなります。

昭和から平成に時代は変わると、市場は徐々にライフサイエンス分野の商材、機器および機器用の試薬キットなどを扱う仕入先メーカーと関係を作り、納入した機器のアフターフォローを実践していったことで、特に機器メーカーからの信頼を得るに至りました。

山陰地域は仕入先メーカーにとっては地理的に不便な場所で、我々販売店への依存度も高く、納入機器のフォロー体制があった事で顧客だけでなく仕入先からも非常に重宝されたのだと思います。

祖父莞爾氏は「商いというものは、飽きないと言われるほど長いものだ。孫の代で報われるという気持ちでやれ。目先のことで動くな」と子である兄弟（富彌氏、祐爾氏、省三氏）に遺訓を残しています。この遺訓を私自身は「弊社はアフターフォローで他業者との差別化を図り、顧客に対し弊社が頼りになると思ってもらえる会社」であり、また顧客に対する姿勢なのだと捉えています。

また、先代からあった「和」「協調性」「思いやり」を大切にした家族のような職場意識は私自身も変わらず踏襲し、より強い絆にしていきたいと思っております。

そして本年1月、弊社は祖父莞爾氏が社長になってスタートしてから、65年の月日を迎えました。長きにわたって弊社が存在しているのは多くの仕入先さまとの信頼関係があったからこそだと私は思っています。

「商いは元にあり」という諺

「商売の成功・失敗はその土台となる資金に左右される」という意味ですが、弊社にとっての資金(元)はまさしく仕入先メーカーとの信頼関係だと先代より教えてもらいました。この諺の持つ意味を弊社社員で全うしてきた結果、今日があると私は思っております。これまで会社を支え働いてくれた多くの社員、そしていつの時代も弊社を懇意にしていただいた多くのお客さまのお陰であると思っています。

時代は様々な変化・スピードの速さがありますが、弊社もその流れに乗ってこれからも多くの皆さまと関わりながら繁栄できるよう、そして祖父・父・叔父達のこれまでの努力に感謝しながら会社を発展させていきたいと思っております。協会の皆さまには何卒ご指導・ご鞭撻をいただきますようよろしくお願いいたします。